

1グループ

■本日の感想、疑問

〈どう行政(=公)を巻き込むか?〉

- ・地元の県において、平成23、24年度で、地域の地域円卓会議を8エリアで開催した。事務局がNPOで、行政も一参加者であった。参加者は代表ではない(個人の意見)。これを今後活用して行くにはどうすれば良いかが課題。参加者は概ね肯定的な意見であった。
- ・生活支援サービスをどのように進めていくかの話し合いに、行政がどうすれば来てくれるか、そのキーパーソンが誰なのかが分からない。
 - 行政も事業化されていると入りやすい。
 - 行政も全ての団体の話し合いに行けるわけではない。話しを持って行く先の行政に提案制度があれば、それに提案してもらえると良い。

■地域円卓会議の活用法

〈“協働”をすすめるには?〉

企業からみた行政やNPOはどう見えるか?

- 企業:
 - ・ワークショップなどやるが、あまりイメージない。仕事以外で行政との関わりない。NPOも接点ない。
 - ・仕事でも関わりがない。仕事で市役所に子どもの予防接種のプログラムを作らないかという話を持っていったが、冷たい反応(一企業の提案ではダメ)だった。
- 行政: 提案と行政の課題認識があわないと難しいと思う。
- NPO: 行政とうまく付き合う方法を知りたい。(仕組み、行政用語など)
 - 出前トークなどで呼んで関係を作るのも手。何の関係もないところにいきなり話を持って行くのは難しい。
 - 行政内もいろいろハードル(①担当→②所属→③予算→④議会などなど)がある。課題解決に協働で取り組むためには両者が一緒にハードルを越えていくことが必要。
 - 課題・制度にあった提案をしていくことが大切と思う。
- ・行政の仕組みを知った上で提案を行っていく必要があると分かった。
- ・行政も行政だけの思いではどうにもならず、連携の必要は認識している。どことやればよいか迷っている。提案自体は、ありがたいと思っている。
- ・すぐに事業化するの難しいが、日頃から情報交換していくのが第一歩。
- ・皆が困っている。円卓会議で困っている主体同士が対等に話し合うことが有効なのだった。

地域円卓会議に企業も参加してもらうには?

- ・企業とNPOの連携は大切だと思う。企業に聞くとCSRの必要性は100%と言っているが、どことつながっていけば良いか分からないと思っている。企業がCSRをやっていると新聞に出ると、うちにもというNPOがたくさん出てくる。企業の人はどう考えているか、どうすれば地域の会議に出てくれるか?
 - お金を出すのは難しいが、技術は提供できる。
 - 企業により、いろいろと思う。業態・規模・担当者・・・
 - 企業からCSRの協働相手としてNPOという選択はまだあまりない。
 - 南粕谷のモデル事業では会長が地元の文具店とJAを地域のつながりを生かして呼んできた。
 - 円卓のテーマによって参加者が変わってくる。方針などの大きな話であれば、大企業や商工会などになると思う。
- ・行政(県)は地域のキーパーソンが分かっていない。市町村や社協に紹介してもらおうのありがたい。地域によって色々であって、参加者選定が非常に難しい。
- ・行政との付き合い方がわかってきた。行政用語には特殊なものもあるので、理解をした上で話しをしていきたい。
- ・NPOが行政のことが分からないのと同じように、行政は地域のキーパーソンが分からないということが分かった。お互いの長所・短所を理解して、協力していきたい。

2グループ

■本日の感想、疑問

<合意形成の場なのかどうか？>

- 企業の立場からいくと、時間内にそれだけのために企業から参画させるか？
- 合意形成をここだけでしていいのか？議会・庁内などなど
 - ・関係者来るもの拒まず、「ステークホルダー」に集まってもらうのが本来で特徴の一つ。
 - ・ワークショップと地域円卓会議との違い ★「参加者が発見する」ことを重点におく
 - ★「目的・目標をきめてリードする」
- ・「市民参加会議」①計画が決まっていて、お知らせ的に市民の意見を聴く→市民は言いつばなし。行政聞きつばなし
 - ②決まっていなくて、本当に聞きたい →言っている方も言われている方もすれ違っている
- ・「円卓会議」 ①決まる前にやる
 - ②合意形成

<モデル協議の場に参加しての感想は？>

モデル協議①阿久比町地域が広がった(今後の自分の活動範囲)。雲をつかむような話だが、「結果」を求められ、その報告がしづらかった。今後のステップへのきっかけになった。今後は任意でネットワークを広げていく。(個人的には行きたいが、会社派遣は難しい)

モデル協議②知多市南粕谷南粕谷では、実行グループを別で作った。話し合う場+実行していく場。住民自治：自分たちが決めて自分たちがやる場をどうつくるか。

- ・いろんなやり方があるが、特定課題の解決だけなら少人数団体でできるが、「住民自治」だと広いいろいろな人が話し合うべき。⇒「テーマ」の設定によって、いろいろ変わる
- ・正解を求めがちだが、先入観を持たずにやれた。
- ・ステークホルダーだけで解決できない問題もあるから、課題を明らかにすることが大切(そこに「お金」「寄付」がくるのが財団)
- ・ステークホルダーに「自分ごと」にしてもらうことも大事
- ・解決を求めるのではなく「つながるきっかけ」になるのもいい
- ・想いを受け取ってくれる人に声をかけるだけでなく、対決する人にも声かけしたい
- ・物理的に○がいいということ
- ・「ファシリテータ」が大事
- ・協議の場の前後が大事。話したいことをまとめるのも大事だと思った

■地域円卓会議の活用法

- ・技術を持っているシルバー世代と就労支援若者との間でやっていきたい。
- ・県ではあまり機会がないので、マンション管理組合などで作っていきたい。
- ・寄付を集めて「助成」する財団をつくるので、財団で円卓会議をやってみたい。地域課題を共有するためにしたい。

例

例えば、「子ども教育」の中でも、広く問題があるので。

- ・「リニモ」をめぐって円卓会議的に住民を集めて、「市民市役所塾」をやっている。これから対話の場のやり方をつくる一歩となる。
- ・身体障害者のヘルパーと草の根ささえあいプロジェクトでネットワーク形成。豊橋でネットワーク勉強会「子どもの権利条例」を作る場で円卓会議やりたい。
- ・企業の人「阿久比町協議の場」防災(企業防災)の仕事+地域との協働をどうしていくか？会社の想い+答えの見えないものに企業として参加できるか？企業の視点をもっと入れてもいいのかなと思う。

3グループ

■本日の感想、疑問

疑問(1)ワークショップ(既存のポストイットに意見を出したり、と地域円卓会議との違いは？

- ・“人選”が違う
- ・対話を積み重ねる

(2)地域円卓会議で数回行う場合、会議欠席者への配慮はどうするのか？

- ・コーディネーターが議事録を渡し、次回の案内をする
→メールで送られてきた議事録だけでは伝わらない。顔を合わせて伝える機会をつくる

(3)行政は、オブザーバー参加でいいのか？

- ・行政は、オブザーバーではいけない
- ・NPO がやっていくので、オブザーバーでもいい

感想・まず、できることとして既存の会議を環境として円卓会議にすることができる。今年度の事業に活かせたので、先に学んでおけばよかった。

- ・既存の会議でも、顔を見合わせて話をするよう心がけている。
- ・市民(NPO)だけでなく、市役所の中でも「円卓会議」をプログラム化してほしい
→行政内縦割りではいけない。まずは、行政内で実践してほしい。
- ・地域円卓会議に参加する人も、責任を果たさないといけないと感じた。ただの参加ではなく、1市民として、また所属団体(会社)の一人として責任を果たす。
- ・地域円卓会議をする際、参加者の人選が大事だと思った。前向きな発言ができる人がいい。
- ・行政は、やったことのないことをやるには1歩がいる。
- ・各自の得意を活かす。行政は文章が得意。
- ・参加者への依頼書などは、行政が出してもらおうと市民にとっても企業・NPOにとってもいい。
→行政は、責任が伴うので安易に書類を出すことはできない。事前に話し合うことが重要。

■地域円卓会議の活用法

- ・3月に行政職員研修を地域円卓会議で開催する予定。中堅職員が、各課から参加する。
- ・2～3年後、こどもの居場所事業を円卓会議で実践する。テーマ:子どもの居場所運営を地域の人で。
エリア:中学校区。
- ・既存の会議を見直して、円卓会議のようにしていきたい
- ・市民活動をしていて、「人は変わる」と信じている。地域円卓会議でも、「人が変わっていく(成長する)」ことを応援したい。
- ・地域円卓会議は組織内で行ったり、市民活動センターがしかけていく役割。センターが核になってステップアップしていく。

4グループ

■地域円卓会議の活用法

〈円卓会議のような事例について〉

エリア設定

・高浜市では、以前のまちづくり協議会の構成メンバーは、PTAとか町内会、民生委員とかでカテゴライズされていた。そこで、地域の課題をみんなで解決できないかというところから始めて、メンバー構成を考えた。範囲は歩いて行ける小学校区単位で組織。

・豊田市では、地域自治区制度が中学校単位であるが、ちょっと広すぎると感じている。また、それ以外にも任意のコミュニティ会議やその下に自治区とか、いろいろな地域の会議があるが、メンバー的にはほぼ似通っている。会議の形式として、テーマ型と地縁型があるが、テーマ型でないとNPOとかはなかなか入っていけないのでは？地縁型にNPOが入るのなら、先進事例を紹介する等、すこしずつ入っていくのがいいと思う。

→地域の会議は、地域の方が実情を分かった上でかかわっていくというのが一番だと思うので、NPOがどのように関わっていくべきかは、現在自分は模索中であり、逆に教えてほしい。

参加者の選定

・大口町では、会場は円卓ではなく四角ではあるが、円卓会議のようなことをやっている。当初は、NPOと行政の意見交換会であったが、団体と行政だけでいいのか、地域の人(区長・区長の経験者)の話も聞かなければならないということで行っている。参加者をもっと広げていかないといけないと思っている。

→自分は地元の事は知らないが、どんどん地域に関わっていきたいと思っている。それには何かきっかけが欲しい。自分は半田市成人式実行委員をやったから、こういう場に参加している。報酬はいらませんが、学生はご飯がついているとありがたい。あと交通費等の実費弁償的なもの。

参加者依頼や広報について

・尊敬する教授からの紹介があれば、効果は高いと思う。あと、チラシとかだけでなく、直接、説明に来てほしい。

・男女共同参画フォーラムについて、チラシを郵送するだけでなく、配って回ったところ、かなりの参加者を見込むことができた。東海市の星城大学は、大学自体が地域とつながりたいと考えており、地域センターというのを設置している。例えば、東海市の市民活動センターには星城大の学生が、アルバイトという形で体験活動を行っている。

・愛知教育大学でも同じようなことをやっていると思うが、大学生に届いていないのが現状。

行政

・地域円卓会議を行うことで、どのような成果を上げることができるのかを、上に説明するのが難しいと思う。市民活動支援課なら、地域の人との仲を深めた等でも、成果になるだろうが、事業課においては、そうもいかない。何かいい方法はないか？

→半田市では、市民参加と介護保険において、企画と介護保険がコラボして行っている。

→事業課だけでは難しいので、市民活動課を使って、一緒にやるという形をとるのが良いのでは。

5グループ

■本日の感想、疑問

〈円卓会議とワークショップの違いは？〉

- ・テーマがより具体的であると円卓会議。テーマをしぼるためには、やりながら人を巻き込み輪を広げていく。多様なところでネットワークを作っていく
- ・持続的に連動していくものが円卓会議。ワークショップは単発で終わってしまう。
- ・円卓会議は意志決定権を持つ人が集まる。
- ・今までの会議では、会の実状を把握せず出席し(あて職)、決定権がある。
- ・ワークショップ(グループワーク)は、「こうありたいよね」で終わってしまう。
- ・円卓会議は 内容をよく知る人が集う
- ・円卓会議はアクションを起こすための会議 → 時間を掛けて積み上げていく

■地域円卓会議の活用法

〈円卓会議はどんな時に活用できるか？〉

- ・行政と市民活動のスピードが合わない。→これを円卓会議でできないか⇒政策につなげていく。
- ・会議は、学習の場
- ・行政、市民の両方がとまどっている。
行政…補助金を出す形の協働(期間限定される)
先のアクションを考えていない→補助金が出ている期間に次の展開を考える必要がある
- ・制度設計前の円卓会議が有効
- ・市民の声を大きく。市民団体もつながっていく事が大切。

〈円卓会議は誰が活用できるか？〉

- ・行政側、市民側どちらでも。
- ・行政は命を守る仕事(サービス)、まちを動かすには仲間が必要。
市民から課題出し→円卓にのせ→行政へ
- ・行政に頼りきりではダメ。市民みんなで支えていく。
市民活動の評価が無い←広報(市民活動のPR) 信用のバックアップが欲しい。
- ・本当に助けて欲しい人につなっていない
- ・企業に取り込んでもらうためには、課題・テーマの設定をより具体的にする必要があるのでは？
- ・行政は年度で事業が終わってしまうので、円卓会議を施策前の計画にのせられるタイミングで行う
- ・住民の活動(市民活動)は変わらない、5年、10年後の市政をお互い共有し、持続するためのしかけを作っていく
- ・体質の違う人(多様な人)が合意できるステップが必要

6グループ

■本日の感想、疑問

- ・市民と話す機会を、もっと増やしたい。
- ・同じ問題課題を持つ人との、円卓会議でないと、解決に繋がらない。
- ・ルールを決めることの重要性を感じた。
- ・一人一人が意見が言える場が大切。
- ・主体性を持つ事が大切
- ・どの様な場で、どの様な話を、どの様なルールで話すかが重要。
- ・問題に対し、受けの良い言葉や、相手の希望する答えを言うのは、解決ではない。
- ・目的がぶれない円卓会議であること。
- ・会議参加者一人一人が、『より良くする』という意識を持つ。
- ・自分で自分の意見が言える事。(私の国、私の生活、私や子供たちの教育)
- ・円卓会議は、どの場面でも使える会議(地域の子供会役員、PTA活動に参加しない保護者が多いが、目的をもって話す事で気持ちも変わる)
- ・地縁⇒実際に、熱い思いのある人は少ししかいない。
- ・地域の問題を出し合う前に、住んでいる地域の良い所から出し合い、話を重ねていくと、地域の課題も出てくる。
- ・行政から「ダメ。ムリ。」と言われると、ストレス。「やれる事からやろう」の気持ちが大切。
- ・自分の意見を出す、意見を聞くには、信頼関係がないと出てこない。
- ・当事者目線になること。
- ・1つの課題があれば、直接出向く。
- ・市役所は、敷居が高いと思われる、まずは「どうぞ」と受け入れる気持ちが必要。
- ・市民にも、行政が出来ることと、出来ないことを分って欲しい。
- ・市民からの「これをやって。」と丸投げでなく、少しずつでも、地域を良くしていきたいという気持ちで、市民と行政が、一緒に考えていこうと、歩み寄りながら、話し合いを重ねて、信頼関係を築きたい。

■地域円卓会議の活用法

〈行政について〉

- ・顔なじみとは、上手くいくが、顔が繋がってないと、上手くいかない。
- ・本日の話し合いも、これからの円卓会議でも、行政は、漏れこぼした問題や情報を聞ける場にして欲しい。
- ・当事者が、行きやすい場(公民館、子供支援センターなど)で、円卓会議を設ける。

〈参加者の選定について〉

- ・円卓会議に参加意欲のある人は良いが、ない人も、いっぱいいる。ない人にとっては、会議を聞いても「後は頑張るね。」で終わってしまう。
- ・地域を良くする円卓会議には、予算・基金・寄付などお金がないと、無理ではないか。
- ・豊田市では、市民がやりたい事業を申請し(中学校区域ごとに1つの申請が出来る)、市民や地域委員が審査基準により決定し、500万(1年間)の補助金で事業ができる。
- ・生まれた事業を継続することが大切。
- ・やりたいと思っている人はいる。面倒と思うが、背中を押してくれる人がいると出来ることがある。

7グループ

■本日の感想、疑問

- ・協議の場ではどうしても人が集まらない → 具体的なテーマやピンポイントの話題
- ・2年やってきたが、事務局が大変すぎて中断している。
- ・雲南市は大変お金をかけ、事務局もしっかりしているので続いている。そのままの真似は無理だと思う。
- ・サポートたちは、協議の場づくりが上手！事前打ち合わせがしっかりしているので、協働事業がうまくいっている。

〈コミュニティの単位について〉

- ・三河地区はNPOがたくさんあるが、尾張地区は少ないのでうらやましい。あま市は合併して、あま市市民活動センターを開く予定でいる。合併すると、それぞれの地区の特色が残ってしまう。
- ・私たちの地域では、校区単位が多い。雲南のような小規模の例は地縁団体で終わってしまうのでは？
 - その場合コミュニティを改めて組み直したらどうか？
 - 犬山市でも、少人数単位だったが、コミュニティで動けるようになった。

〈そもそも会議に出してくれるのか？〉

- ・江南市では、自治体が核になり人を集め、行政がファシリテーターになる制度を設けたが、1件も問い合わせがなかった。
- ・駅前が賑わっており、人も多い地区だが、自治会に出てくるのは高齢者ばかり。
- ・自治会は何ごともなく1年過ぎるのを祈っている。(議題を上げてほしくない)
- ・知多市は、町内会で決まったことは行政に、その後報告している。

〈円卓会議のメンバー集めについて〉

- ・「自分と仲のいい人や感じのいい人を集めた」といっていたが、個人的には、いいよね！の意見で突っ走ってしまうのは、非常に怖い。少数意見であっても無視せず、違う意見の人にOKと言えるのか？
 - 参加者選定は、とても不安である。
- ・議会でも過半数になれば通るので、yesマンばかり集めているのが現状。
 - ⇒ ファシリテーターが重要!!
 - 建築関係のファシリは、住民や現場のクレームなどを一手に受けている。その対応もへこたれず、しなやか。上手なのでは？

■地域円卓会議の活用法

〈学生との円卓会議もやりたい！〉

- ・大学に入学する時点で、“福祉”に対しては意識が高いが、最近は消極的な学生も多く、サービ斯拉ーニングなどで、地域の人に育ててもらっている。地域円卓会議を開催したい。
- ・平成24年度、知多市障がい者活動センターやまももで作っている「パン」を知多翔洋高校で販売した。こういった取り組みを、行政はどこまで知っているか？円卓会議の機会を持てたらいい。
 - ⇒ 教育現場が変われば、子供もかわる！

〈社会福祉協議会の重要性〉

- ・今は、地域福祉中心で他に目がいけない。重要な位置(中間支援機能)にあるのにもったいない。中には、若い職員で熱い思いのある人もいるが、上の人につぶされてしまうこともある。

〈行政も円卓会議を！〉

- ・議会をやるときに少しでも円卓の話をしてほしい。
- ・制度をつくるときから円卓の方式で！
- ・住民説明会でもぜひ！

8グループ

■地域円卓会議の活用法

活用はできそうかどうか

- ・ コミュニティが防災を自分ごととして捉えていない。地域には行政のOBがいるため、行政と地域が「平等に」「対等に」は難しい。
- ・ 防災・障害者はテーマがはっきりしているから円卓会議を開きやすいのではないかと。→当事者だけでは解決できない。もっと広く声かける必要性を感じている。
- ・ 参加者を呼びかける時、積極的に行政をつかえるといい。
- ・ 社協は「行政より固い」と言われて来た。しかしやっと伴走支援のきざしが出てきた。

メンバーの選定：大御所対策はどうするか

- ・ どの会議に参加しても同じ人たちがいる。地域の上下関係のまま持ち込まれるため、結果的に大御所がしゃべりまくる。
→【大御所対策】南粕谷コミュニティでは、代表はおもいっきり若くした。
- ・ 私はまだ20代。しかし上司も若い。自分にいろいろ任せてやらせてもらっている。
- ・ 大御所対策は、コーディネーターが手を打って「仕掛け」をしないとダメ。学ぶ意識を持ってもらう必要がある。
- ・ 若手が意見を言えるためには、第三者のファシリテーターを使うのがいい。

最後に一言

- ・ 地域はいろんな人がいる。強く言っても簡単に変わらない。
→社協の事業の中には、“福祉教育”というテーマもある。円卓会議を使って、地域の福祉意識を変えて行くことができるといいと感じた。
- ・ 大御所の件で、みなさんに愚痴ってしまった。若い世代を育てる意識を持って、新しい風を吹かせていけるようにしたい。
- ・ 真摯さを忘れず、会議の参加者と一緒に学んでいきたい。
- ・ 私はすでに活動をしているが、なかなか社協の人はサポートをしてくれない。病院から帰される高齢者が増えていくとNHKの番組で見た。これから地域のサロンやたまり場を増やさないといけないと実感した。だから、社協の人と一緒に私たちの活動を応援してほしい。一緒に動いてほしい。
- ・ 自分の所属する組織に新しく地域交流室ができる。その活用方法を地域円卓会議の手法を使って考えて行きたいと思っている。
→アドバイス：どこの地域も元気なおばちゃんがいる。その人たちをうまく巻き込んで行けるといい。
- ・ 逃げるわけにはいかない。がんばりたい。
- ・ 地域で情報を共有していくことの大切さを感じた。
- ・ 自分には何ができるか、どうしたらいいかわからないが、知り合って勉強できた。これからも勉強したい。

9グループ

■本日の感想、疑問

〈どういう人を参加者に呼べばいいのか？〉

- ・参加者同士で合う人、合わない人がいる。
- ・合わない人がいないとなぜいけないか？ →議論が崩れてしまう。議論にならなくなる。
- ・反対意見を言っはいけないのか？ →反対意見がないのはおかしいのでは？様々な意見も必要。
→反対するための反対はダメ。
- ・なぜ反対するのかを説明できなければだめ。
- ・フラットが重要
⇒★一定の合意をしたら、そこから前へ進むこと。
…反対意見を否定するものではなく、合意したものを掘り返して後ろ向きにはならない。
少しずつでも前向きな議論で、一歩ずつでも積み重ねることが必要。

〈円卓会議の特徴〉

- ・”テーマが主役”は素晴らしい。…議論が様々な方向に行っても、原点(テーマ)に立ち返れば本題に戻ることができる。
- ・テーマがあるので使いやすい。
- ・行政との協働が進めやすい。
- ・ワールドカフェの”対話力・作為的ではない”という特徴に比べ、円卓会議の特徴は、より出口(ゴール)に近く、作為的と感じる。(実践者意見)
- ・問いを出し、その引き出し方の問題。
- ・つなぎの場
- ・発展型で分野毎にできないか。

〈行政のあり方・関わり方・使い方〉

- ・行政は成果を期待してしまう
- ・行政は、課題をつかむことができているのか。
- ・潜在的なキーマン
- ・今後の活躍が期待される人が入れる場づくりが必要。
- ・行政は使い方。使えるものは使った方がいい。
- ・武豊町は、まだ協働の認識が薄い。提案型助成制度を検討している。
→話し合いの場(現場を知ること)が必要。
- ・縦割りではなく、コラボが必要。
- ・行政職員の関わり方として、積極的な地域参画も必要。
- ・行政の課題の拾い方として懇談会、要望制度などがあるが、行政だけでは対応できないことがある。

■地域円卓会議の活用法

- ・半田市では、区のレベルが様々。横川小学校は1小学校に対して4区があるが、区長と学校、PTA、行政で話し合い。夏祭り、防犯パトロールなどをしている。これも円卓会議のようなものだと感じる。
- ・託児ボランティア10周年イベントを計画している。→行政の支援を引き出すためにはどうすればいいのか。
→行政は様々な助成制度の情報を持っている。
- ⇒相談してみてはどうか。行政も一緒に議論に加われればいいのでは？
市民が先導しており、実績があれば何らかの支援が期待できる。→円卓をしていきたい。

10 グループ

■本日の感想、疑問

〈円卓会議の人選・エリアについて〉

- ・町内会域でボランティア活動実践者の仲間数名でグループをつくり活動を始めた。町内会と連携していくために使ってみたいが5～6人でも有効か？
→10～20名が有効。誰を選出するかも重要。無作為に参加者を選出した会議は、ネガティブな意見で場の雰囲気壊れるときがある。

〈円卓会議の経験ある？〉

- ・長久手知り合い塾・・・10人(4、5人のコアメンバーと事前打合せで絞ったあと20人ほどで協議するかたちが望ましい)
- ・知多市南粕谷では、事例報告の円卓会議以外に、12～13名の実行委員会も同時に進行していた。始めの1～2回は、協議の内容がつかめず困惑した。
- ・安城市の高齢者見守り事業で、社協と住民との意見交換会を計画。10名程度のコアな会議を予定して、住民参加を区長に依頼したところ50人程度集まってしまった。5地区の自治会からなる地域だが、いずれもトップダウンで動くため自発的に促すことが難しい。
- ・総合計画策定の際、市内の法人も参加して円卓会議を実施。和室を会場に4日間行われたが、ざつぱらんな雰囲気活発な意見交換ができた。

■地域円卓会議の活用法

- ・災害や防災のテーマで、行政・社協・町内会のまちづくり会議を進めてみたい。
- ・地域に重症心身障害者と知的障害者の通所施設があり、新たに交流サロンを計画中。住民との意見交換の際に使えるとよい。
- ・円卓会議の開催について、条例があると場の設定がしやすい。協働を知らない行政職員が多すぎる。
- ・障がい者の団体も障害の特性で縦割り。行政福祉課も縦割り。障がい支援の分野内の横の連携も難しい現状だが、とりあえず会議を輪にして始めてみたい。
- ・「円形は顔が見え、意見のやり取りがしやすい。まずは、会議を円形で進行してみる」「地域内の問題解決のためなどと難しく考えず、とりあえず使ってみる」という事で合意。

〈その他〉

- ・知多市岡田地区で歴史・文化を活かした観光のまちづくりを進めている。旧地区ではよそ者を拒み、協議の場で共感がもらえない。旧地区と新興住宅の連携は難しく地縁組織での円卓会議は難しい。
- ・協働促進のため地域に出かけることは行政の仕事。協議の場を持つ時間帯も、分野や住民の都合に合わせて、夜間や土日関係なく開催する。
- ・円卓会議では、会議中に協議の内容をプロジェクターで表示する。行政会議では、必ず議事録を作成するため、見せながらの進行は、全体共有に効果的で、効率的にフィードバックできる。